

追いトップガン

2022. 9. 6

この夏休み、当初の予定通りに映画を見た。「トップガン マーヴェリック」である。映画が終了し、映画館を後にするとき、家人が一言発した。「もう一度見に来たい」確かにそういう映画だった。もう一度見たいと思った。

次の日、早速二度目と思いきや、まずは一作目を見て復習することにした。おかげで、二作目への理解が深まった。そこに、36年間という歳月は感じられなかった。この勢いで、再び映画館に向かえばよかったのだが、結局行かずに終わった。

ちなみに、「キングダム2」も見た。こちらも家で早速、前作を見た。復習と確認である。確認というのは、映画ではコミック本の何巻から何巻までが描かれているのか、省いている部分はどのくらいあるのか、映画オリジナルのストーリーはないのかなどである。キングダムの特徴の一つだが、なかなか進まない。映画もそうだった。これでは、寅さんシリーズぐらいに映画化していかないと終わらない。

世の中には、36年前のトップガンの続編である今回の作品を見るために、何度も映画館に足を運ぶ人がいるという。2、3度ならまだわかる。それが、10回、20回、80回、そして160回という人もいる。尋常ではない。1日に6回も見たという強者もいる。異常ともいべき現象である。

何度も見にってしまう現象、これに「追いトップガン」と名がついていることを知った。名称がつくほどの現象なのである。圧倒的な爽快感と没入感が体に染みついて中毒のような症状になっているのかもしれない。熱心なリピーターというレベルではない。ストーリーはわかっているのに見るたびに感動するのだろう。

36年前と同じ現象が起きている。一つは、レイバンのアビエーターと呼ばれるサングラスの品薄状態である。前作に引き続き、今作でもトム・クルーズさん演じるマーヴェリックが愛用しているモデルである。もう一つは、自衛隊航空学校説明会への参加者が増えていることである。わからないでもないが、そんなに甘くはない世界だと思うのだが。

アニメ作品やスターウォーズのように何度も鑑賞する熱いファン層の存在が見られる作品ならわかる。トップガンには元々のファン層など存在しないだろう。それでも、追いトップガンと呼ばれるような現象である。

今回のように、リピーターが続出している動きは珍しいのではなかろうか。きっと、それぞれの青春の一コマを色鮮やかにしてくれたトップガンという映画作品を多くの人が忘れずにいたのである。加えて、新たな若い世代の支持者の出現である。

この夏は、いい作品に巡り合った。まさか、36年も経ってから続編が出るとは考えないだろう。昔、日曜洋画劇場という番組があった。淀川長治さんのことを思い出した。あの独特の語り口調で、いつも「映画っていいですね」と言っていた。それでは、さよなら、さよなら、さよなら。